

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00991

研究課題名(和文) 近世ベトナムにおける文書行政の南北比較のための基礎的研究

研究課題名(英文) Foundational Investigation on the Comparative Studies of the Document Based Administration between Tonkin and Cochinchina during Early Modern Vietnam

研究代表者

蓮田 隆志 (Hasuda, Takashi)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：20512247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：初年次の2018年にホイアン遺跡保存管理センターでの予備調査を行い、史料の保存・公開状況について把握した。しかし、コロナ禍のために本調査を行えないまま終了せざるを得なかった。そのため、文書館調査が上手くいかなかったときのためにあらかじめ用意していた計画に従い、既に収集していた史料の再検討に作業を切り替えた。

期間中の代表的成果として、文書を主題とする学会発表6件、外交文書を具体的に分析した論文2篇を公刊するほか、人事関連文書を翻刻した史料集をワーキングペーパーとして刊行した他、東南アジア史にとって重要な通史の翻訳を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1つは外交文書の分析で、文書の背景にある情報のギャップがキーワードとなる。外交文書の運用に当たっては、遠く離れた地にいる人間同士をつなぐという性質上、情報格差がどうしても伴う。そして文書の運搬になった人々は、そのギャップを利用してそれぞれの利得を図った。また、文書は「読まれるもの」であるため、文言が「どのように読まれたのか」という観点からの分析が重要であることも強調すべき事項である。2つ目は村落史料の翻刻と分析である。現地調査によって収集した資料類を死蔵化することなく、学術的検討を加えた上で公開する作業は、研究の進展のみならず文化財の保全と共有にとって重要な貢献である。

研究成果の概要(英文)：The Principal Investigator (PI) conducted a preliminary survey to understand the state of preservation and public access to historical documents at the Hoi An Center for Cultural Heritage Management and Preservation in 2018, the first year of the research project. However, due to the emergence of COVID-19, this survey had to be concluded earlier than originally planned. Therefore, the PI switched focus to reviewing the documents already collected, which was the intended back-up plan in the event of an issue conducting the archival survey.

Over the course of the project, the PI made six presentations at academic conferences based on the research findings, published two papers on the specific analysis of diplomatic documents, published a collection of reprinted personnel-related documents as a working paper, and translated an important book of Southeast Asian history. These can be considered achievements which are representative of the research carried out.

研究分野：ベトナム史

キーワード：ベトナム 近世 文書

1. 研究開始当初の背景

ベトナムは歴史的に漢字文化圏の一部を構成しており、日本や朝鮮と同じく、その文物や制度について「中心＝規範たる中国からの影響」と「現地社会・民族の独自性」の両方から論じられ、その評価についての議論が近代的学問の成立以前から繰り返されてきた。この種の議論には、日本や中国、朝鮮、ベトナムなど近現代まで存続した国家や民族を単位として扱い、内部の差を無視しがちな、いわゆる「一国史観」の問題、中心・周縁関係のみに過度に注目し、周辺地域間の交渉の作用を過小に見積もってしまう問題が指摘されてきた。ベトナム史においては、この問題について90年代以降、英語圏の研究者を中心として多くの一国史観批判・国民国家史観批判がなされた。17～18世紀ベトナムには北部の鄭氏政権・中南部の広南阮氏政権という2つの政体が分立していたが、後者の広南阮氏政権がこの視角にとって重要な位置を占めた。今日では広南阮氏政権を「分裂したベトナムの一部」と無条件にはみなさず、北部と生態や風土、民族構成や歴史性が異なっていることを重視し、後代の「統一」への道が自明では無かったことも、少なくともベトナム国外では共通の了解事項となっている。

しかしながら、上述の諸研究は国民国家史観批判という目的から、南北で異なる事象の指摘に留まり、具体的な差異の分析、当然存在するはずの共通性の把握、(中心である中国からの影響ではない)南北相互の交渉によって生じた事象の位置付け、などに至っていない。とりわけ、国家権力の強弱や人口の多寡といった条件から、実務上・制度運用上の必要によって生じた差異を地域性や長い歴史性に基づく差異と辨別する傾向が弱い。このような課題を克服するに際して、共通性と差異の両方に配慮するだけでは不十分で、何に基づく共通性/差異なのかを明らかにしなければならない。そのためには、これまでの作製年代と精度に問題を抱える編纂史料に依拠した研究ではなく、一次史料に基づいた研究によって実態や運用の側面を検討し、そこから地域性の有無強弱を判断しなければならない。幸いにも、21世紀に入ってからベトナムでは村落史料の開拓が進み、実態や運用を知りうる文書(もんじょ)が多数存在していることが明らかになった。中央官庁の文書がほとんど残存していないこともあり、村落に現物や写しの形で残された文書史料の分析こそが、上述の課題克服に必要不可欠である。

本研究発案の大きなきっかけは、ベトナムの研究者ニャム・ティ・リの資料紹介「18世紀ホイアン明香社資料を通じてみたる広南宮」である。ティの報告により、ホイアン遺跡管理保存センターに4000点以上の近世華人関連文書が収蔵され、既に整理済みであることが判明した。全てが原文書ではなくコピーを含むものの、地方官衙から村民に発給された様々な文書が含まれていることが報告されている。代表者はこれまで、広南阮氏政権治下での発給文書を調査する機会が1度しかなく、南北比較は謙抑せざるを得なかった。ティの報告により、本格的な南北比較に踏み込むことが可能になった。

2. 研究の目的

文書史料の分析を通じて、制度運用の実態を解明することが可能になるが、複数の村落文書をまとめて検討しなければ、村落の個別的事情解明に留まってしまふ。複数の村落文書群をまとめて検討し、そこから国家構造の特質を明らかにすることによって、鄭氏政権と広南阮氏政権の実証的比較が可能になる。本研究の目標は、両政権の文書行政の実態解明。それを通じた比較により、2つの政権の差異と共通点を明らかにすること。差異と共通性を生む諸要因から地域性に関わるものを辨別することに整理できる。

3. 研究の方法

本研究の対象は村落レベルで残された17・18世紀の行政文書(各種禁令や免税・免役証明、辞令、納税証明書など)である。北部の鄭氏政権治下で発給された文書については、これまで代表者が収集してきたもの(現ナムディン省、ニンビン省、タインホア省、ゲアン省、ハティン省)を中心に、これらを網羅的に再検討する。

広南阮氏政権治下での発給文書は、代表者が過去に収集したフエ近郊村落の文書に加えて、ホイアン遺跡管理保存センターが収蔵している文書の調査を行う。同センターはホイアンの華人集落に伝存する4000点以上の古文書を収集している。これを主要な材料として南北の文書の比較検討を行う。同センター収蔵資料にはコピーも含まれているが、可能であるならば、村落に残されている現物を直接調査する。

族譜や遺言状など私文書も豊富に残されているが、本研究では検討の対象を国家構造の差異を反映しやすく、代表者がこれまで収集した北部での収集史料との対象も行いやすい行政文書に限定する。まずは初歩的な作業として、各種書式(示や傳など)の整理と機能の解明、時代ごとの変容の検討などを個別に行う。

4. 研究成果

当初予定していたホイアン遺跡管理保存センターでの調査が、新型コロナウイルス肺炎の蔓延のために初年度の予備調査のみにとどまったため、その史料を活用した研究は断念せざるを

得ず、既に収集していた史料の分析によって研究を進めた。期間中に雑誌論文1本、ブックチャプター1本、雑誌特集号の趣旨文1本、研究史の整理と一般向け紹介記事を3本、重要な研究書の翻訳(上下2冊)、史料集1冊を刊行することができた。また、全国学会・国際ワークショップでの発表は6回で、うち2回は英語、1回はベトナム語(ペーパー参加)である。

このうち、「近世日越通交の黎明」と「朱印船時代の日越関係と義子」(『国書がむすぶ外交』)とは、外交文書を扱ったもので、文書様式についての基礎的な検討作業を行ったこと自体に、ベトナム史研究に於ける意義が存する。この点では、ワーキングペーパーとして公刊した史料集『後期黎朝勅式人事文書集』も重要で、今後の研究インフラとして活用できる具体的成果だと考えている。また、2論文から導き出された含意としては、日本とベトナムとの16-17世紀の関係は、まずもって東・南シナ海世界での貿易ネットワークの中で、比較的マイナーな存在だった点が重要で、それが両者間に情報ギャップを生む原因となった。初期の日越関係は、この情報のギャップを利用した人々によって切り開かれ、それに諸政権の支配者たちが後乗りする形として展開していったことが判明した。そして、情報ギャップを利用した貿易事業は必然的に偽使問題を惹起するため、日朝関係や明初の偽使問題と接合可能であることが示唆される。以上の知見は、翻訳した『世界史のなかの東南アジア』では、十分に取り入れられていない論点であり、今後の研究活動を通じて世界的に共有される知見としていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 蓮田 隆志、米谷 均	4. 巻 56
2. 論文標題 近世日越通交の黎明	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 127～147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/tak.56.2_127	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 蓮田 隆志	4. 巻 24
2. 論文標題 朱印船貿易・南洋日本町地図の再検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 1～8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 蓮田隆志	4. 巻 16
2. 論文標題 東洋学の名著：山本達郎（編著）『ベトナム中国関係史：曲氏の抬頭から清仏戦争まで』（山川出版社、1975年）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国史史料研究会会報	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 蓮田隆志	4. 巻 130-5
2. 論文標題 回顧と展望：東南アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 271-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Hasuda Takashi
2. 発表標題 Mot so nhan xet ve buc thu ngoai giao Viet-Nhat co nhat
3. 学会等名 Hoi thao khoa hoc "Tinh cach nguoi Nghe va su bien doi cua nhung net tinh cach noi troi trong dieu kien hien nay" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 蓮田隆志
2. 発表標題 偽使の海域アジア史からみる日越関係
3. 学会等名 第18回 アジア太平洋カンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 蓮田 隆志
2. 発表標題 近世公文書における印と簽押：東アジア比較古文書研究にむけて
3. 学会等名 日本ベトナム研究者会議2018年度後期研究大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 蓮田 隆志
2. 発表標題 称「安南国王」攷
3. 学会等名 東南アジア学会第100回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hasuda Takashi
2. 発表標題 Seal and signature in official document during early modern Vietnam: Its format, usage, and characteristics
3. 学会等名 4th Congress of the Asian Association of World Historian (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hasuda Takashi
2. 発表標題 Between trade and diplomacy: Adoptive son in the Japan-Vietnam relationship during the early seventeenth century
3. 学会等名 International Workshop “Correspondence between Crowns: Asian Diplomatic Practice in the 17th-19th Centuries” (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 松方 冬子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 国書がむすぶ外交	

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 398
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [上]	

1. 著者名 アンソニー・リード、太田 淳、長田 紀之、青山 和佳、今村 真央、蓮田 隆志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 世界史のなかの東南アジア [下]	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 蓮田隆志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 立命館アジア太平洋研究センター	5. 総ページ数 30
3. 書名 後期黎朝勅式人事文書集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------